

## 効果的な複数の構成要素からなる学級管理プログラムは教室での生徒の行動を改善しているように見えるが、さらなる研究が必要である



**効果的な学級管理は、教員が適切な振る舞いをする生徒に焦点を当てることができる、良い学級環境を築く予防措置である**

### このレビューの目的は何か？

このキャンベルシステムティックレビューでは、破壊的・攻撃的な生徒の行動に対する複数の構成要素からなる教員による学級管理プログラムの効果、また、どの管理構成要素が最も効果的なのかについて調査する。

このレビューはアメリカとオランダの公立学校一般教育課程で行われた12件の研究からわかったことを要約する。

幼稚園から12年生(日本では高校3年生にあたる)の生徒が研究対象者である。

破壊的な生徒の行動は、学業に勤しむ時間が少なくなってしまった崩壊した学級にいる生徒の学業成績に影響を及ぼす。

生徒への特効薬となる効果的な学級管理予防措置におかれる適切な行動は、生徒の行動を改善させる。

### このレビューでは何を研究したのか？

教室での破壊的な生徒の行動は、一般的に、学業成績が良くないことと関係している。

授業時間は、たびたび破壊行動の統制に費やされてしまっている。

効果的な学級管理とは、教員が適切な振る舞いをする生徒に焦点を当てることができる、良い学級環境を築く予防措置である。

このレビューでは、破壊行動に対する複数の構成要素からなる学級管理プログラムの効果と、どの管理構成要素が最も効果的なのかについて調査する。

### どんな研究があったのか？

研究対象者として幼稚園から12年生の生徒がいる公立学校一般教育課程について報告された研究があった。有効性研究では、統制群を使った妥当な実験的または疑似実験的研究デザインを用いる必要があった。

これらの研究はアメリカとオランダで実施された。

このシステムティックレビューには、総計12件の研究が含まれている。これらの研究に学年別の結果の分類は含まれていないため、学年別の分析はできない。12件の研究のうち7件は同じ調査グループによるものであり、これらは研究者自身の研究計画の有効性を評価したものである。



### このレビューがどれほど新しいものか？

このレビューの著者は2009年6月までに公表された研究を対象に調査したこのキャンベルシステムティックレビューは2011年6月に発表された。

### キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画はシステムティックレビューを公表する国際的、自主的、非営利目的の研究ネットワークである。私たちは社会科学及び行動科学における研究に関するエビデンスの質を要約し評価する。私たちの目的は人々がより良い選択と方針を決定することを支援することである。

### この要約について

この要約は2011年4月のキャンベルシステムティックレビュー、Teacher classroom management practices: effects on disruptive or aggressive student behaviour by Regina M. Oliver, Joseph H. Wehby and Daniel J. Reschly. (DOI 10.4073/csr.2011.4)に基づき、Ada Chukwudozie and Howard White (キャンベル共同計画)が用意したものである。コピーエディットとレイアウトはTanya Kristiansen(キャンベル共同計画)が行った。この要約の作製を目的とするAmerican Institutes for Researchによる経済的支援は大いに認められている。



### このレビューの主な成果は何か？

概していえば、複数の構成要素からなる教員による学級管理プログラムは、教室で行われる攻撃あるいはその他の問題行動を減少させることにおいて、かなり良い効果がある。

何らかの介入を行わなかった統制条件である教室の生徒と比較すると、レビューした計12件の研究のうちの何らかの措置を行った教室の生徒は、破壊行動あるいはその他の問題行動が減ることが確認された。

サンプル数が少なく、レビューされた研究で報告された情報が欠けているため、管理プログラムのどの構成要素が最も効果的であったかについて、結論付けることはできない。

### このレビューからわかったことは何か？

複数の構成要素からなる組織としての教室や行動管理プログラムは、効果的であると思われる。しかし、研究のサンプル数が少ないため、明確に有効であったと結論付けるには尚早である。加えて、複数の構成要素からなる学級管理プログラムへの厳しい評価が欠けていたため、教室での破壊行動を減らすことにおいて、どの構成要素の組み合わせが最も効果的であるか、についての結論を導くことはできない。管理実践における最良の組み合わせを決定するために、複数の構成要素からなる学級管理プログラムの有効性について、さらなる独立した研究が必要だ。